提言

千葉県にはすばらしい資源がある。

大多喜ガス株式会社代表取締役社長　緑川（みどりかわ）　昭夫（あきお）

1　千葉県の天然ガス

「すすむ千葉県」という副読本があったように思います。今から50年ぐらい前にその本で学び、茂原市の特産は「ガス」となっていたと思います。今はそれが私の仕事になっています。千葉県は日本でも珍しい天然ガスを産出する地域です。国内では新潟県に次いで１年あたり約4.4億立方メートル、家庭用に換算すると約100万軒の使用量に相当するガスが本県で生産されています。また、この天然ガスは輸入のLNG（液化天然ガス）とは違い、マイナス162℃での液化の必要もなく、また、遠くからの船での輸送も必要ないことなどからCO_2発生量はかなり少ないエネルギーと言えます。

この天然ガスは南関東ガス田という関東地方南部の地下にある水溶性天然ガス田から採掘されており、現在の採掘量からすると600年とも800年ともいわれる可採埋蔵量となっています。しかし、かん水（塩水）と言われる太古の海水と一緒に取り出しますので地盤沈下への影響の懸念からこの生産量は大きくは増やせません。

2　千葉県のヨウ素

このかん水中にはさらに貴重な「ヨウ素」が高濃度で含まれており、これを精製して世界中に輸出しています。これも資源小国ニッポンにしては珍しく、ヨウ素の日本の生産量はチリに次ぐ世界第二位となっています。このヨウ素の用途でおなじみなのは、うがい薬や殺菌剤ですが、最も多い用途はレントゲン撮影などの際の造影剤です。最近では液晶パネルの製造過程でも使われています。ヨウ素は元素ですので合成することのできない貴重な資源です。

また、人間にとっても微量ですが必須の元素で、ヒトの甲状腺ホルモンに含まれています。原子力事故などの際には放射性物質のヨウ素131が甲状腺に取り込まれてしまわないように安定したヨウ素を先に甲状腺に取り込んでおくのが安定ヨウ素剤と呼ばれるものです。また、このヨウ素が足りないと「ヨウ素欠乏症」という病気が起こってしまいます。日本人はワカメや海苔などヨウ素の多い食品を頻繁に食べていますので欠乏症となる心配はないのですが、海藻類を食べない国などでは塩にヨウ素を添加することが法で定められている国もあります。ただし過剰摂取も健康への悪影響があるとのことです。貴重な資源であるヨウ素は世界的にも需要が高まっており千葉県から安定して生産・供給していくことを世界から期待されています。

この千葉県の天然ガスとヨウ素のオンライン社会科見学（学研キッズネット）の二次元バーコードを下に記載しておきます。

スマホやタブレットでご覧ください。

3　地域課題への貢献

地域で必要とされるエネルギーを供給している事業ですので地域密着で人々の生活の礎となっています。しかし人口減少や過疎化が進むことで地域が衰退してしまえば地域に根付く事業も衰退するしかありません。天然ガ

ス供給の都市ガス事業は地域との運命共同体といってもよい事業です。

そのためには、これからは事業の一環として地域課題を解決していかなければなりません。その際に寄付や善意だけで地域課題を解決しようとすると長続きしないのではないかという考え方あります。その地域課題解決をビジネスに変え、ちゃんと食べていける仕事にしていく。そうすることで永続的な社会貢献になるという考え方です。寄付や善意はその志を引き継ぐ人がいるか、その寄付を続けてくれる人がいるかといった永続性への課題が残ってしまいます。最近の言い方ではCSR（Corporate Social Responsibility=企業の社会的責任）からCSV（Creating Shared Value=共通価値の創造）へという言い方で説明されています。

きちんと稼げる社会課題の解決ができる人材という大切な資源も千葉県に豊富になることを期待しています。

4　千葉県にない地熱

また最近当社の企業グループに地熱発電用の井戸を掘削する会社が加わりました。地下の熱水や蒸気を取り出すために2,000mぐらいの深さの井戸を掘ります。地熱は再生可能エネルギーの中でも天候に左右されないエネルギーとして注目されています。地熱は火山や温泉の多い地域で開発されていますので、残念ながら千葉県は地熱の開発には向いていません。日本は世界でも有数の地熱資源を持っているのですが地熱エネルギーの利用は遅れています。したがって地熱掘削の技術者も少なく、海外のフィリピンなどから「日本では技能を持つ人が少ないことから在留が認められるビザ」で招聘している状態です。これは実は航空機パイロットなどと同様の位置付けで、日本ではまだ育っていない技能者として日本で働いてもらっています。

5　ダイバーシティ＆インクルージョン

地熱井の会社では様々な国籍の人達が働いています。国籍、性別の有無などにとらわれず多様な人たちの多様な特性が生かされて包括的にうまくいくことが求められています。

高度経済成長の過程で日本人は同質性を高めて、あうんの呼吸で日本経済を支えてきました。同じ価値観を持った人たちで集まって集団の力を発揮することで成功体験を積み重ねてきたのだと思います。しかしこれからは少し変えていくべきだと思います。違う価値観を持つ人を認め合い、許しあえるようなことで新たな社会が発展していくのではないかと感じています。あたり前かもしれませんが、高齢者と若者で考え方が違う。これは困ったことではなく素晴らしいことと考えてはどうでしょうか。「総中流社会」の均質な社会はすでになくなっています。しかし、いきなりLGBTsの多様性を学校に持ち込むのも難しいと思います。小さな差異から認めあうのはどうでしょうか？好きなアニメキャラが人によって違うのでもよいし、好きな教科が違うのでもよいかもしれません。正しいことを主張することより、好きなことをうまく主張できる人が魅力的に見えるようになってきています。多様な人材が力を合わせることで、できることが増えていく。こういった多様な人材の力を活かす資源も千葉県でたくさん開発されるとよいと思います。

茂原市出身　2018年大多喜ガス社長
その後天然ガスを掘削・生産する関東天然瓦斯開発株式会社と大多喜ガス株式会社の持ち株会社であるK&Oエナジーグループ株式会社社長に2020年就任
グループ会社にヨウ素を生産するK&Oヨウ素株式会社と地熱掘削会社の株式会社ELMA等がある。